

CONTENTS

地域発ニュース	1~4
国有林野所在市町村の魅力紹介	5~6
特集コーナー	7
使える行政情報& 研究・技術の参考情報	8
地域のこの人	9
東北森林管理局の管内で	10
予定されているイベント情報	



樹齢150年生以上の天然秋田スギとカツラ、ホオノキ等が混成し、
季節ごとに多様な彩りをみることができます。
市道に近く、自然観察の場として利用されています。

林業の低コスト化を目指して

津軽森林管理署

林業が「儲かる産業」になるには、省力化を進める低コスト化が必要です。ここでは、津軽森林管理署で取り組んでいる伐採と造林の一貫作業システムをご紹介します。

従来の造林方法では、立木を伐採・搬出した翌年度に、散乱した枝を片付ける地拵ちごしらえを行い、春または秋に植栽を行います。地拵や苗木の運搬を人力で行うため、多くの労力と時間を要します。

そこで、立木の伐採・搬出で使用している重機を活用して地拵を同時に進め、地拵を終えた箇所から順次植栽を行うのが一貫作業システムです。従来人力で行っていた地拵や苗木運搬の作業に重機を活用することで省力化します。



重機による苗木の運搬

また、一貫作業システムで植栽する苗は、培地付きで背丈が大きいコンテナ大苗を試験的に導入しています。通常よりも早く周囲の草木の高さを上回ることで、夏場の重労働となっている下刈回数の削減が期待できます。

コンテナ大苗を導入することで、通常植栽後数年間毎年行う下刈の省略と植栽木の生長量を調査・検証し、東北地方に合致した「一貫作業システム」の構築を目指しています。

一貫作業システムは、東北森林管理局内各署管内で導入が進んでいます。

健全な森林を守り育てるために ～木材の安定供給と事業体の育成～

三陸北部森林管理署

先人たちが植林し守り育てた人工林が本格的な利用期を迎え、健全な森林を育てるための森林整備を適切に実施し、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させることが益々重要となっています。また、ウッドショック以降、木材輸入量が減少し、国産材の安定供給はもとより、森林整備を担う林業事業体の育成が喫緊の課題となってきています。

こうした中、当署では令和3年度の森林整備事業として、約500ヘクタールの間伐を計画し、地域の林業事業体5社と請負契約を締結し事業を実施しました。

林業事業体の経営の安定化に資するため、毎年度、同程度の事業を確保することで新たな高性能林業機械の導入、新規雇用など林業事業体の育成に貢献しています。

一方、間伐等の森林整備を適切に実施することにより、令和3年度は約3万4千立方の木材を供給することができました。このうち約9割以上が品薄で需要が高いカラマツであったことから、安定供給にも少なからず貢献できたと考えています。

署としては、今後も「国民の森林」の適切な管理経営を通じて、地域の課題に取り組んでいきたいと考えています。



プロセッサで枝払いをしている様子

役場職員の現地見学会を開催しています

宮城北部森林管理署

森林、林業における市町村支援の一環として、職員を招いて現地見学会を開催しています。例えば、色麻町産業振興課の職員を対象とした見学会では、間伐予定箇所において、区域の蓄積を簡易に算出するため「お見通し」という器具を使った体験と、立木を計測し、周辺の材積を求めるため、測樹する作業を行い、その後場所を移動して、林道路網整備等の考え方について説明しました。



「お見通し」を使って蓄積を算出

近年、国有林で取り組んでいる「列状間伐や低コストな森林作業システム」をはじめ「森林作業道チェックリスト」による維持管理について説明しました。体験の終了後は、意見交換を行い、町職員からは『「お見通し」は初めて使いましたが、これ一つで簡単に蓄積が求められるので、今後利用していきたい』との意見をいただきました。

当署としては、国有林の各事業で実施している森林整備等について理解し活用してもらえよう、今後も市町村支援への取組として引き続き実施していくこととしています。

林業がイヌワシを救う？

庄内森林管理署

鳥海山麓には、天然記念物イヌワシ（環境省レッドリスト絶滅危惧種ⅠB）の生息地があります。木材の輸入自由化に伴う国産材の利用減少や燃料革命による薪の需要減少等から、林業の不振、従事者の高齢化が進む中、イヌワシも手入れ不足の森林で餌を探すことが難しくなり、繁殖成功率、個体数は下降の一途をたどっています。

かつては「木を伐ること＝自然破壊」という風潮もありましたが、「守るべき森林」と「利用すべき森林」があることを広くお知らせするとともに、森林施業や施業を通じて生産される木材の利用が、森林の持つ様々な公益的機能発揮のほか、イヌワシ保護にもつながることを理解していただけるよう、昨年度初の試みとして「森林とイヌワシからSDGs」と題した猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館主催（環境省、林野庁共催）の一般市民向けの講座を開催しました。

参加者からは「大変良い内容。子供達や一般の方にも知ってもらいたい。森林伐採にも意味があり、環境生物に配慮していることは大変素晴らしい。」「人が介入することも重要と教えられた。」など好評価をいただくことができました。

今後も、3者協力し取組を継続していきます。



带状複層伐施業地（国有林）視察の様子

地域を守る治山施設

米代東部森林管理署

平成9年5月10日未明、鹿角市八幡平字熊沢国有林において最大幅約400m、長さ約700mの区域で大規模地すべりが発生しました。

この災害は、橋と温泉施設に甚大な被害を与えましたが、幸い宿泊客と従業員は、鹿角市からの避難勧告等に従い、事前に避難していたため全員無事でした。

この地すべりが発生した原因は、軟弱な地層・岩石の上部に、硬質な岩体が分布している地質構造に加え、雪解け時期と発生2日前の日雨量110mmを超える豪雨が重なったためと考えられています。

地すべり発生後、更なる被害拡大を防止するため、抑止効果のある鋼管杭打工、地すべりの原因を取り除く地下水排除工、溪流部の縦横浸食防止のため、床固工・護岸工の対策を実施しました。

今年は例年に比べ積雪が多く、今後の気温上昇に伴い新たな融雪災害も懸念されます。施工箇所は現在、顕著な異常は確認されていませんが、地域住民の安全と生活を守るため、今後も関係自治体と連携し、継続的な監視・観測を続けていきます。

○地すべり発生箇所



施工前



施工後

ニホンジカ被害防止に向けた取組

岩手南部森林管理署遠野支署

ここ数年急激に生息数が増え、農林業被害が深刻化しているニホンジカ被害に対する遠野支署の対策として、植生保護柵の設置による希少植物の保護、シカ食害対策剤の塗布や保護管による単木防除を行っています。

また、シカの個体調整については、シカの捕獲事業のほか、協定に基づく市へのワナ貸出しや県の指定管理鳥獣捕獲事業に対応した捕獲支援で狩猟圧を高めています。



遠野市と花巻市に貸し出している「くくりわな」

捕獲頭数が最も期待できるのが狩猟期（11月から3月）における捕獲支援です。森林整備などの事業がなく、シカの目撃情報が多い箇所や、越冬地と推定されている箇所周辺の林道を除雪し、安全対策を講じた上で狩猟者が山奥へ入りやすい環境を作ります。

令和元年度は8路線、令和2年度は12路線の除雪を行い、令和元年度は350頭、令和2年度は802頭の捕獲と成果を上げています。狩猟者からは「除雪のおかげで狩猟がやりやすく、遠野市は条件の良い猟場」と評価されています。

今後も、各種協議会を通じて県や地元市町村及び猟友会等と連携した被害防止対策を継続していくことが重要となります。

自然体験学習活動と森林教室

山形森林管理署最上支署

国有林では、地元地域の児童・生徒と保護者が自然体験学習の活動ができるよう「遊々の森」という協定をNPO等と締結し、活動を支援しています。例えば、「塩根川学校の森」は平成16年から17年間にわたり活動しています。

令和3年10月17日には、地域住民の方々や児童を対象に約35名（内子供12名）が参加してスギの枝打ち、巣箱制作、手作りピザ作りなどを体験しました。

令和3年10月18日には、真室川町立真室川北部小学校5、6年生を対象に森林教室を行いました。

授業内容は環境問題やSDGs、地元地域の森林等について、クイズも交えながら授業を進め、こちらからの質問に対しては正確に答えていただくなど、環境問題に関する意識の高さに講師である当支署若手職員も関心させられました。

今後も、森林教室などを通じて地元地域の小学校との交流を継続していきたいと思えます。



初めての枝打作業

ドローン撮影も届け出を

秋田森林管理署

「ドラゴンアイ」という名所があることを耳にした方は多いのではないのでしょうか。

秋田県仙北市田沢湖玉川、八幡平の中にひっそりとたたずむ鏡沼の季節限定の別名で融雪が進み青い水面が見え始めるころ、その姿を現します。ドローン等で直上空から撮影するとあたかも龍の目に見えることからそう呼ばれ、近年人気の撮影スポットとなっています。

鏡沼がある場所は秋田森林管理署管内国有林なのですが、そこまでの歩行ルートが岩手北部森林管理署、米代東部森林管理署管内国有林を通過するため、ドローン撮影等のため入山される方については秋田、岩手北部、米代東部森林管理署の三署に対して「入林届」を提出いただいております。ドローンを飛行させる場合、「入林届（無人航空機を飛行させる場合の入林届）」を提出いただく必要があります。鏡沼へは例年4月以降の融雪を待ってたくさんの方が入山されています。



ドラゴンアイ（鏡沼）

入林届等の用紙は森林管理署ホームページからダウンロードができ、提出はメールによる送付が可能です。予定される方は一度ホームページをご覧くださいことをお勧めします。なお、現場でドローン等を飛行させる際はルール及びマナーを遵守していただきますようお願いいたします。

国有林野所在市町村の魅力紹介

宮城県刈田郡蔵王町

仙台森林管理署

蔵王町は宮城県南西部、霊峰蔵王連峰の麓にあり、四季の移り変わりを存分に堪能できる農業と観光業が盛んな町です。蔵王のシンボル「御釜」は約800年前の噴火でできた火口湖で、別名五色沼と呼ばれており天候によってエメラルドグリーンや瑠璃色に変化する水をたたえ、荒々しい火口壁との対比は神秘的で多くの方を魅了してきました。



蔵王のシンボル御釜

蔵王町の春は雪解けから始まり、例年4月上旬に開催される「雪の壁ウォーク」は蔵王エコーラインの道路両側にそびえ立つ10mの雪回廊を歩きます。桜の開花時期と重なるため、1日で雪見と花見が楽しめる格別な旅が味わえます。



蔵王エコーライン 雪の壁ウォーク

夏になると新緑が輝く季節になりドライブスポットとして多くの来訪者でにぎわいます。高山

植物の女王「コマクサ」や「アサギマダラ」といった植物もみられる蔵王連峰では毎年山の日「ざおうさまトレッキング」が開かれ、100名以上の参加者が山を満喫しています。



令和3年度「ざおうさまトレッキング」

秋はナラやブナが黄色や赤に染まり紅葉狩りシーズンです。また、県内1位の生産量を誇る梨の最盛期となり、各農家の直売所ではみずみずしい梨の購入や梨狩りの体験ができます。

冬は「えぼしスキー場」と「すみかわスノーパーク」でウィンターシーズンがオープンし、スキーやスノーボードを楽しむ方でにぎわいます。日本三大樹氷原である蔵王の樹氷は雪上車の「ワイルドモンスター号」で向かう特別なツアーを開催しています。



雪上車で行く樹氷ツアー

蔵王町の四季折々の変化に富んだ観光資源は、自然環境が織りなす宝物です。近年、環境破壊が問題視される中、大切な資源を守り先人から受け継いだ宝物を次代に贈る活動に日々取り組んでいます。

問い合わせ先：蔵王町農林観光課 Tel.0224-33-2215

国有林野所在市町村の魅力紹介

秋田県能代市

米代西部森林管理署

能代市は木材産業が盛んで、かつて「東洋一の木都」と称されていました。この時代を象徴する建物が「旧料亭金勇」です。昭和12年に迎賓館として建てられ、平成10年には国の登録有形文化財に登録、平成21年に市に寄贈されました。天然秋田杉を贅沢に使った上品な造りとなっています。



旧料亭金勇

能代市の名所の一つに「風の松原」があります。東西幅1km、南北総延長14km、面積約760haで東京ドーム約163個分の広さです。能代はその昔、飛砂による被害が多く、先人達の尽力によって植林され、育てられた700万本ものクロマツは、現在も厳しい海風や飛砂からまちと人々を守り続けています。その一部は、市民の散策、ジョギング、憩いの場として利用されています。



風の松原

ところ変わって、能代市二ツ井町には天然秋田杉の保護林があります。18.46haの林内には平均樹齢250年、約2,800本の天然秋田杉が立ち並んでいます。中には、天然秋田杉として日本一の高さを誇る「きみまち杉」（高さ58m、直径164cm）もあり、気軽に散策・見学することができます。



仁耐水沢スギ希少個体群保護林

最後に「道の駅ふたつ〜きみまちの里〜」です。平成30年7月にリニューアルオープンした建物には木材がふんだんに使われています。また、歴史・民族資料コーナーは、米代川を中心に発展した歴史文化や木材産業、道の駅周辺の動植物の紹介のほか、中央部ガラス張りの床には、樹齢約850年の杉の埋もれ木が展示されており、訪れる人々の興味を引きつけます。周辺には桜やツツジ、紅葉の名所「きみまち阪」、対岸には軽登山や散策ができる「七座山」、カヌーの川下りが体験できる「米代川」など見所満載です。



道の駅ふたつ（杉の埋もれ木）

1. はじめに

昨年6月に策定された新たな「森林・林業基本計画」において、今後の森林・林業施策の指針が示されました。

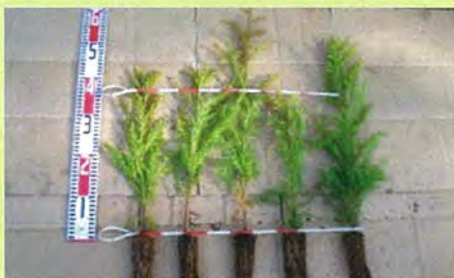
本計画では、森林・林業・木材産業の持続性を向上させながら成長発展させ「グリーン成長」の実現を目指すこととしており、再造林の確実な実施と造林コストの縮減が重要な課題とされています。

また、昨年3月には「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」（間伐特措法）の一部改正により、成長の良いエリートツリーや大苗を用いて再造林を促進する措置が新設されました。

2. 大苗の導入による試験の開始

令和3年度の管内国有林における「一貫作業」の一部事業地において「スギコンテナ大苗」約10万本を導入し、下刈回数（通常は5～6回実施）の低減を目的とした実証試験「下刈0回区、1回区、2回区」を設定しました。

今年度植栽した大苗の規格は、スギコンテナ苗（2年生以上）、苗長60cm以上、根元径7.5mm



（コンテナ苗 35cm 上、150cc）



（コンテナ大苗 60cm 上、300cc）

以上、根鉢300ccとなっており、通常植付けしている普通サイズ（35cm上、4.0mm上、150cc）と比較し約2倍の大きさとなっています。

実証試験については、管内10箇所においては、生長量調査を令和6年秋まで行い、データを集積・分析することとしており、大苗植栽による下刈軽減モデルの確立を目的としています。

3. 大苗の実証と今後の展望

令和4年度においても、カラマツコンテナ大苗を含め約16万本を一貫作業による事業で使用する予定です。

令和4年度以降も継続して大苗を一貫作業による事業に使用していくことや、徐々に大苗の使用量を増やしていくことに加え春植えした苗木の成長が非常に良いことから、令和5年度からは、秋植事業に加え春植事業でも大苗を使用する事業を計画しています。

また、一貫作業の導入により「伐ってすぐ植える」ことで、作業効率向上、下層植生繁茂の抑制、下刈の実施回数低減も可能となることから、大苗植栽の効果と合わせて下刈作業の低コスト化に期待をしています。



一貫作業事業地（岩手北部署管内）



植栽した大苗（岩手北部署管内）

使える!

行政情報&研究・技術の参考情報

森林環境譲与税の活用について

森林環境譲与税は、森林の有する公益的機能を維持増進することの重要性から、市町村や都道府県が実施する「森林の整備及びその促進に関する費用」に充てるために創設されました。

令和元年度に森林環境譲与税の譲与が始まり、令和3年度までの累計で総額約1,000億円（令和元年度：約200億円、令和2・3年度：各年約400億円）が譲与されたところです。

2050カーボンニュートラルや減災、SDGsへの貢献から、森林づくりや木づかいに対して、ますます関心が高まっています。グラフに示しているとおり森林整備、特に間伐に活用されることが多いですが、再造林や下刈り等にも活用されています。森林整備の基盤となる林道の整備、林地残材を有効活用するための搬出支援、担い手となる新規就業者への支援、友好都市との森林づくりや木づかい交流など、市町村の裁量で様々なことに活用できます。

森林環境譲与税の用途は、各市町村等がホームページ等で公表しているほか、林野庁でも令和3年12月に最新の取組事例集を公表しました。様々な事例を参考に、森林環境譲与税を有効活用していただきたいと考えています。

お近くの署等にお気軽にご相談下さい。

(<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/torikumizyoukyou.html>)



森林環境譲与税の用途

令和元年度・2年度の実績及び令和3年度の見込み（総務省・林野庁調べ、1,741市町村から回答）



ご関心のある方は、お気軽に最寄りの森林管理署等(裏表紙参照)へお問い合わせ下さい。

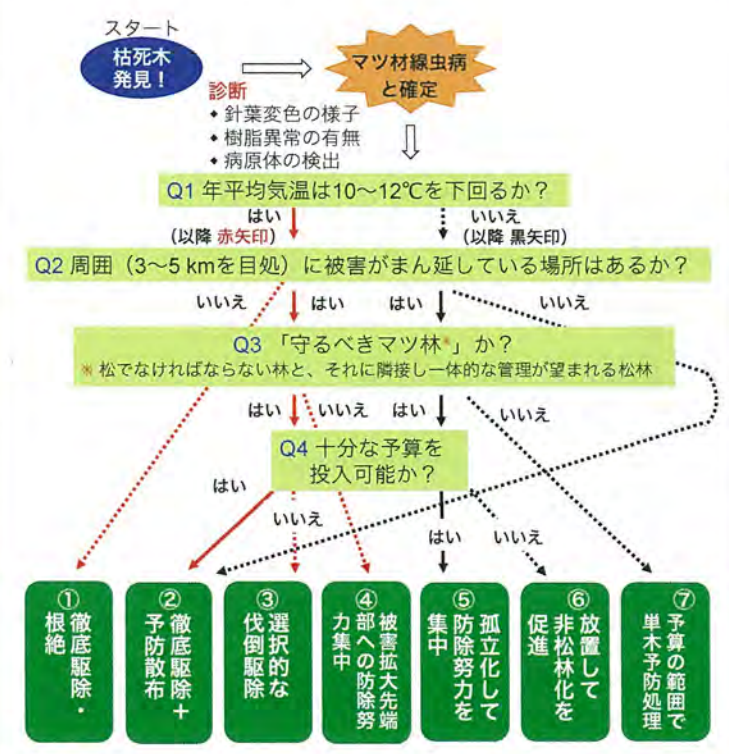
松くい虫対策の新しいマニュアル発刊【森林総合研究所東北支所】

松くい虫被害（マツ材線虫病）対策の手引き書にはこれまでも様々なものがありましたが、この度、森林総合研究所東北支所が中心となり、最新の知見や社会情勢を盛り込みつつ、被害対策の考え方と防除手法について紹介する冊子を新たに作製しました。

本冊子の最大の特徴は、気温や周辺被害状況、松林ごとの防除の「優先条件に応じ、採られるべき防除の方針」を例示したことです。

防除手法の解説では、これまでのマニュアルであまり触れられることのなかった被害木探査や診断に関する話題にもしっかり言及しています。

本冊子は、全国の森林管理局、管理署、各県森林保護対策部署等に配布される他、森林総合研究所ホームページでも公開される予定です。マツ材線虫病対策の基礎から応用までをコンパクトにまとめた本冊子が、防除対策の立案や現場作業のお役に立てれば幸いです。



ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所 (Tel.019-641-2150)へお問い合わせ下さい。

地域のこの人

素材生産の変遷

青森県森林整備事業協同組合
三林興商株式会社 代表取締役 太田 正光さん

自分が当社入社（昭和46年）した頃の素材生産の運搬は、人による雪を利用したソリ又は馬による直引き等の搬出でした。その後、ブルドーザーに進化し、大量の搬出はずっとあとのことです。その頃、営林署の直営生産もほとんどブルドーザーによる搬出で、場所の良い現場では非常に能率が上がりましたが、まだ、バックホウがあまり普及していなくて、作業道作設には苦勞したものです。どちらかという、架線搬出が盛んでした。

当社でも数台の集材装置を所有し、時には3千メートルの距離にワイヤーを張り、上側は集材架線、下側へは索道装置で搬出したものです。連絡は有線か無線機。今では集材機搬出はほとんど見られませんが、当時はそれが当たり前でした。先山へは1時間以上もかかり大変でした。今から想いますと懐かしくもあり、また非常に活気がありました。

近年は、林業も機械化が進み、労働環境は改善されました。あとは人材の確保ですが、この度、息子が令和3年度に開校した青い森林業アカデミーの第一期生として研修を終え当社に就職することとなりました。今後、将来的に若い人が地域林業の中核を担うよう、若い人材を育てていきたいと思っています。



朝のミーティング風景

森林づくり1年生奮闘記

岩手南部森林管理署石鳥谷森林事務所
森林整備官 山崎 彬弘さん

石鳥谷森林事務所は、岩手県花巻市北部の石鳥谷地域を管轄しています。日本三大杜氏の一つとされる「南部杜氏」や宮沢賢治ゆかりの地、多くの温泉地もあり、観光に魅力的な場所です。

昨年度初めての森林官として過ごした中で印象的だったのは、「森林づくり」の現場作業を体験したことです。例えば、植栽木の成長を阻害する雑草木を刈り払う「下刈」作業です。下刈は、成長量の大きい夏季に実施すると効果的ですが、7月の炎天下の作業は想像以上に過酷で、緊張感と疲労でくたくたでした。秋に確認したところ、下刈作業前より植栽木が10cmほど成長しており、「下刈」の効果を実感しました。

下刈作業の労働強度は高く、その軽労化が課題となっていることもあり、効果的かつ効率的な作業の重要性を認識しました。

森林は、水や木材といった貴重な資源、美しい景観、洪水等の災害の防止といった様々な恩恵を私たちに与えてくれています。森林整備に携わることで、森林づくりの重要性や技術的な難しさを改めて認識しました。

これからは、昨年度経験した様々な苦勞や失敗をプラスに変えて、フットワークの軽い、地域の方に頼られる森林官を目指したいと思っています。



パソコンを操作して作業している様子

4月中旬

白石城桜まつり

4月1日(金)～4月25日(月)
白石城本丸広場ライトアップの幻想的な夜桜も楽しめます
(宮城県白石市)

盛岡さくらまつり

4月8日(金)～4月29日(金)
盛岡城公園と高松公園で、ぼんぼりが灯され、夜桜も楽しめます
(岩手県盛岡市)

山火事防止宣伝パレード

4月12日(火)
山火事防止の普及啓発と関係者によるパレードを行います
(青森県むつ市ほか)

能代公園春まつり(さくら)

4月15日(金)～5月5日(木)
公園から眺望できる白神山地などの景色と桜の色合いを楽しめます
(秋田県能代市)

城山山開き

4月17日(日)
山形百名山のひとつ。気軽に登山を楽しめます
(山形県山形市)

角館の桜まつり

4月20日(木)～5月5日(木)
武家屋敷の枝垂れ桜と桧木内川堤2kmに渡るソメイヨシノが見事
(秋田県仙北市)

きみまち阪桜まつり

4月20日(木)～5月5日(木)
1,500本のソメイヨシノが咲き誇る。屏風岩越しの桜が楽しめます
(秋田県能代市)

十和田市春まつり

4月20日(木)～5月5日(木)
日本の道百選の「駒街道」沿いに1kmに渡り桜が咲き誇ります
(青森県十和田市)

4月下旬

蔵王エコーライン開通式

4月22日(金)
雪壁の高さは10m。白銀の回廊のドライブが楽しめます
(宮城県刈田郡蔵王町)

氷見山山開き

4月23日(土)
毎年山開きには200人以上の登山愛好家や家族連れが集まります
(岩手県陸前高田市)

弘前さくらまつり

4月23日(土)～5月5日(木)
毎年200万人が花見を楽しむ日本一の桜祭りと言われています
(青森県弘前市)

鳥海山矢島口山開き

4月28日(木)
「矢島口」の祓川5合目を起点に、7月まで夏スキーを楽しめます
(秋田県由利本荘市)

五葉山山開き

4月29日(金)
県内で最も海に近い高峰で、三陸のリアス海岸を一望できます
(岩手県釜石市)

早春の青麻山を歩く

4月30日(金)
宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター主催のイベントツアーです
(宮城県刈田郡蔵王町)

眺望山自然休養林冬季閉鎖解除

4月下旬予定
山頂(143m)まで急な道もなく、森林浴、植物観察が楽しめます
(青森県青森市)

山野草盗掘防止合同パトロール

4月下旬予定
村内のパトロールと入林者等への盗掘防止の呼びかけを行います
(青森県下北郡佐井村)

5月

花の百名山 森吉山山開き

5月上旬予定
山頂から八甲田峰々や岩木山など、隣県の名山を望むことができます
(秋田県北秋田市)

第64回全日本こけしコンクール

5月3日(火)～5月5日(木)
全国各地からこけしが出品され、工人が技を競います
(宮城県白石市)

真室川梅まつり

5月4日(水)
巣箱作り体験、地元の山菜や加工品、菓子類などの販売を行います
(山形県最上郡真室川町)

外山森林公園で林内作業

5月8日(日)
サポーターを募集。キャンプ場周辺で倒木の枝整理など行います
(岩手県盛岡市)

「ウニの森づくり」植樹祭

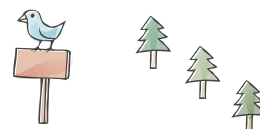
5月15日(日)
特産のウニを育てるための環境づくりとして植樹祭を行います
(岩手県九戸郡洋野町)

天童高原新緑ウォーキング体験

5月22日(土)
山野草や樹木を見ながら新緑の天童高原を40分コースで歩きます
(山形県天童市)

千秋公園つつじまつり

5月中旬～下旬(未定)
大紫、琉球など多くの種類で、約2600株のつつじが咲き誇ります
(秋田県秋田市)



東北森林管理局マップ

広報誌「みどりの東北」スマートフォン対応版はこちら↓



森林技術・支援センター

津軽白神森林生態系保全センター

津軽署

米代東部署

藤里森林生態系保全センター

上小阿仁支署

東北森林管理局

秋田署

湯沢支署

最上支署

朝日庄内森林生態系保全センター

山形署

置賜署

金木支署

凡例

- 国有林
- 県境
- 森林管理署界
- 森林管理署支署界

下北署

青森署 / 青森事務所

三八上北署

久慈支署

岩手北部署

盛岡署

三陸北部署

遠野支署

三陸中部署

岩手南部署

宮城北部署

仙台署

問い合わせ先

青森県	青森事務所	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-2117
	津軽署	弘前市大字豊田二丁目2-4	☎0172-27-2800
	金木支署	五所川原市金木町芦野200-498	☎0173-53-3115
	青森署	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-0131
	下北署	むつ市金曲一丁目4-6	☎0175-22-1131
岩手県	三八上北署	十和田市西二番町1-27	☎0176-23-3551
	津軽白神センター	西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野70-82	☎0173-72-2931
	森林技術・支援センター	北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8	☎0173-57-9022
	岩手北部署	八幡平市荒屋新町41-8	☎0195-72-2221
	三陸北部署	宮古市磯鶏石崎4-6	☎0193-62-6448
宮城県	久慈支署	久慈市夏井町大崎14-12	☎0194-53-3391
	三陸中部署	大船渡市盛町字宇津野沢7-5	☎0192-26-2161
	盛岡署	盛岡市北山二丁目2-40	☎019-663-8001
	岩手南部署	奥州市水沢東上野町12-17	☎0197-24-2131
	遠野支署	遠野市東館町7-39	☎0198-62-2670

宮城県	宮城北部署	大崎市古川東町5-32	☎0229-22-2074
	仙台署	仙台市青葉区東照宮一丁目15-1	☎022-273-1111
秋田県	米代東部署	大館市上代野字中岱3-23	☎0186-50-6130
	上小阿仁支署	北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中376-13	☎0186-77-2422
	米代西部署	能代市御指南町3-45	☎0185-54-5511
	秋田署	秋田市河辺和田字和田156-3	☎018-882-2311
	湯沢支署	湯沢市田町二丁目6-38	☎0183-73-2164
山形県	由利署	由利本荘市水林439	☎0184-22-1076
	藤里センター	山本郡藤里町藤琴字大関添24-3	☎0185-79-1003
	庄内署	鶴岡市末広町23-37	☎0235-22-3331
	山形署	寒河江市元町一丁目17-2	☎0237-86-3161
	最上支署	最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11	☎0233-62-2122
置賜署	置賜署	西置賜郡小国町大字岩井沢581-45	☎0238-62-2246
	朝日庄内センター	鶴岡市下名川字落合3	☎0235-58-1730

東北森林管理局 〒010-8550 秋田県秋田市中通 5-9-16 ☎018-836-2014



No.217

●発行日/令和4年4月 ●発行/東北森林管理局

●東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。